



ももりんMIMだより

小諸養護学校
センター的機能係
平成30年5月1日

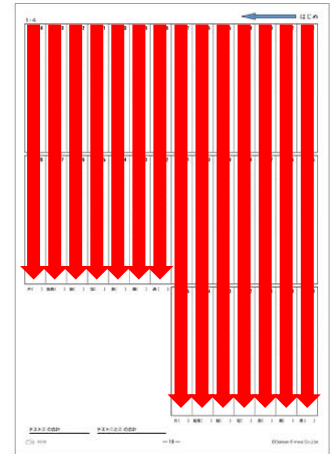
No. 2

新年度が始まり、かわいい1年生が入学して1ヶ月がたちました。まだ第1回の「めざせよみめいじん」を実施していない学級がありましたら、5月が第2回の実施月になりますので、早めの実施をお勧めします。

「めざせよみめいじん」の結果を活用しましょう

MIM-PM「めざせよみめいじん」を実施して、採点をしたら、MIMのCD-ROMにある採点活用ソフトに入力をします。CD-ROMの「soft」の中にある、「MIM-PM_2007」(excelが2003の場合は「MIM-PM_2003」)をコピーして使います。フォルダ名にクラス名をつけておくと分かりやすいようです。

採点はテスト①もテスト②も縦列で丸の数を集計します。縦列で集計すると、清音、濁音・半濁音、長音、促音、拗音、拗長音、カタカナそれぞれの読みの状況がわかるように作られています。テスト②は同じ要素が2回出てきますが、それぞれの合計は採点活用ソフトの中で行われます。



採点を行うだけでも、それぞれのお子さんの様子は把握できますが、採点活用ソフトに入力することでクラスレポートが作成され、クラスの子どもの相対的な位置の把握、支援を必要とする子どもの明確化、クラス全体としての習得度の把握ができます。また、日常的な先生方のとらえと評価がずれている児童が発見されることもあります。

「入力データ.xlsx」を開いたら、「コンテンツの有効化」を行ってください。はじめに「名簿」シートに名簿を入力します。すでにあるデータをコピーして貼り付けても大丈夫です。「学校名」「学年」「組」も忘れずに入力を(年度途中で転出入があった場合は行を削除せずに追加で対応してください)。

次に月のシートを開いて、得点を入力します。名前は名簿から自動的に入力されます。「実施日」の入力を忘れないようにしてください。欠席者は名前の左側の欄に「0」を入力します。

入力が終わったら、シートを右方向にスクロールします。クラスレポートが表示されます。採点活用ソフトの詳しい使い方は「採点活用ソフトの説明.pdf」にあります。

小諸養護学校センター的機能係では、「めざせよみめいじん」の実施、採点処理についてサポートを行います。採点、データの処理は代行も行います。お問い合わせください。

氏名	テスト総合点	テスト①正答数	テスト②正答数
あおい	欠席		
あさひ	18	9	9
ひなた	16	5	11
ゆうま	15	8	7
ゆう	14	6	8
ふうた	14	8	6
そう	14	6	8
ひろと	14	9	5
れん	13	6	7
ゆうと	12	8	4
かく	12	9	3
そう	11	5	6
やまと	10	5	5
ふうま	10	5	5
えいた	8	5	3
あさひ	7	4	3
いつき	7	5	2
あらた	6	4	2
あさと	4	3	1

日常的な取り組みが大事みたい

MIM の実施の上で大事な取り組みは「MIMでの特殊音節指導」と「めざせ よみめいじんの実施」です。この2つと並んで重要なのは日常的な取り組みになります。普段の生活の中でちょっとした時間に意識して取り入れるかどうかで一年を通すと大きな差になります。

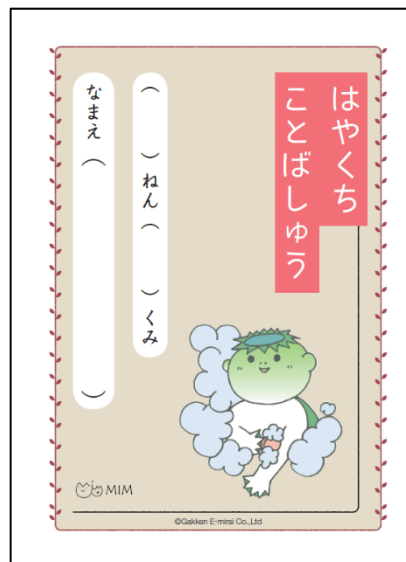


巡回相談支援で小学校の先生方と相談をする中で、お家での学習で語彙を増やすことが難しいといったことをよくお聞きします。お家での時間の使い方はなかなか学校の思いでは変えられない部分です。しかし、学校での取り組みで工夫できる部分もまだまだありそうです。

例えば、読み聞かせも取り組んでいるクラスが多いと思います。1日5分でも毎日継続して行うことで、1カ月取り組むと100分ですから、2時間の授業を行なったことになります。自分では選ばないような本との出会いは、新しい語彙の獲得にも結びついていきます。

MIMのパッケージにも、ちょっとした時間に取り組める日常的な取り組みが紹介されています。

その一つが、「多層指導モデルMIMにおける読み書きに関するゲーム集」です。これは、MIMのパッケージの中に入っている薄い緑色の冊子「ガイドブック」の79ページから110ページにあります。このページだけコピーしておく、さっと見ることができて便利です。ゲームを楽しんでいるうちに、自然と特殊音節の読みが定着してきます。



もう一つが、「はやくちことばしゅう」です。これはCD-ROMの「hayakuchi」の中にデータが入っています。早口ことばが12個のっています。「はやくちことばしゅう文庫.pdf」を1人1冊作っておくと、ちょっとした時間にすぐに取り組めます。また、こういった言葉遊びは好きな子どもが多いので、飽きずに楽しく繰り返し取り組むことができます。早口で3回続けて言えるようになる頃には、特殊音節をリズムよく読めるようになっているかもしれません。

こうした日常的に取り組みをちょっとずつ行っていくことによって、日常的に用いる語彙が拡大し、使用が広がっていくことにつながっていきます。そのためには、子どもたちが楽しく取り組める工夫が必要ですし、先生方も負担が少なく取り組めるものがよいと思います。そういう意味で、今回紹介した2つはよいのではないのでしょうか。

それぞれのクラスで取り組んでいるものがありましたら、教えてください。皆さんで共有しながら、よりよい取り組みにつなげていきたいと考えています。

